

## 教育臨床心理・前田

作成：北口智章（文一ニ 16 組）

### < このシケプリについて >

- ・ 総合科目C系列「教育臨床心理」（前田基成）の試験対策教材として作成した。
- ・ 教科書『青年期の臨床心理学』、配付プリント、講義内での説明等に準拠した。
- ・ 平成30年度・Aセメスターの試験範囲の内容を掲載した（教科書11章以外）。
- ・ 編集の都合上、項目の順序を入れ替えたり、重要でない事項を割愛したりした。
- ・ 21A、22S、25A、27S、29Sを除く20S以降の16回分の過去問情報を付記した。

### < 目 次 >

§ 01	イントロダクション	2
§ 02	防衛機制と解離	3
§ 03	精神病① ヒステリー	4
§ 04	精神分析理論	5
§ 05	性格形成① アタッチメント	7
§ 06	性格形成② 愛着障害	9
§ 07	精神病② ストレス病	10
§ 08	精神病③ 気分障害	11
§ 09	精神病④ 不安障害	13
§ 10	精神病⑤ 摂食障害	14
§ 11	精神病⑥ 統合失調症	15
§ 12	パーソナリティ障害	16

## §01 インTRODクシヨン

### ✓ 自分の心は分かりにくい

#### ➤ [ 心理的リアクタンス理論 ]

- ・ ⇒ 「失われそうな選択肢」に対する好感度が、無意識のうちに上昇してしまうという、行動の法則性。
- ・ [ 心理的リアクタンス (心理的反発) ] : 「選択の自由」が脅かされる際に、その維持を試みる強い動機。
- ・ ビジネスの世界における「限定N個」や「袋とじ」なども、この効果を利用している。
- ・ [ プレームの実験 ] : レコード会社の調査で、入手可能性が低下したCDへの好感度に顕著な上昇がみられた。

#### ➤ [ 心理的メカニズム ]

- ・ ⇒ 「ある状況・場面」で「ある感情・思考」が起こる際、両者の間にある何らかの無意識的な作用。
- ・ この存在から、必ずしも「自分のことは自分が一番よく知っている」とは言えないと分かる。
- ・ 人間の感情・思考には一定の法則性があり、心理学はこの心理的メカニズムを研究対象とする。

#### ➤ [ 自己知覚理論 ]

- ・ ⇒ 自己の内面がよく分からない場合、人は[ 外的な手がかり ]によって自己の内面を「推測する」とする。
- ・ [ エピネフリン実験 ] : 感情が外部環境に影響されることを明らかにした。米の[ シャクター ]が実施。

#### ➤ [ 情動の二要因理論 ]

- ・ ⇒ 人間の感情は、[ 内面の状態 ]と[ 外的な環境 ]の無意識的な評価によって決定されるとする。
- ・ ← 自己知覚と言語による内面の表現は、幼児期の経験の中で他者からの教示によって習得されるため。

#### ➤ [ アレキシサイミア (失感情症) ]

- ・ 主観的感情を正しく認識できない、想像力に乏しいなど、[ 心身症 ]患者の特徴。米の[ シフニオス ]が提唱。
- ・ 苦痛を他者に伝えることができない、苦痛を想像力で和らげることができないため、精神疾患に陥りやすい。

## § 02 防衛機制と解離 【過】

### ✓ 防衛機制

#### ➤ [ フラストレーション (欲求不満) ]

- ⇒ 欲求の満足が阻止されることで陥る心理的不安定で、以下のような行動 (A~C) を引き起こす。
- A [ 合目的的行動 ] : 目標達成をあきらめず、あくまで努力をする。
- B [ 防衛機制 ] : 目標達成をあきらめ、性格に適合するスタイルに沿った行動を無意識的にとる。
- C [ 非合目的的行動 ] : 自己破壊的・自暴自棄的な行動によって、心理的安定の回復を図る。

#### ➤ 防衛

- 解決できない何らかの心理的問題 ( 心理的葛藤 ) に直面した人間は、[ 心理的不安定 ] を回避・軽減 ( 防衛 ) し、心理的安定 ( 心理的適応 ) の回復を図る様々な心理的メカニズムを、意識的・無意識的に働かせる。

#### ➤ [ 防衛機制 ( 適応機制 ) ]

- ⇒ 心理的不安定を回避・軽減する心理的作用の一つ ( プラス面 )。その方法 ( ①~⑩ ) によっては、反社会的行動 ( 社会的不適応 ) など [ 問題行動 ] に繋がりがかねず、精神的な成長を阻害することもある ( マイナス面 )。
- ① [ 補償 ] : 優越感を覚える行動をとる。
- ② [ 反動形成 ] : 自分の欲求とは正反対の行動を取り、欲求の表出を抑制する。
- ③ [ 置き換え ] : 異なる対象に、欲求不満を見出す ( いわゆる 「 八つ当たり 」 )。
- ④ [ 代償 ] : より欲求を満たしやすい対象に、目標を設定し直す。
- ⑤ [ 昇華 ] : 社会に適応的な類似する行動を取り、欲求不満を解消する。
- ⑥ [ 抑圧 ] : 欲求不満を無意識下に抑圧する。
- ⑦ [ 合理化 ] : 欲求不満の原因について、自己正当化を図る。
- ⑧ [ 投射 ] : 他者について、自分と同じような考えを持っていると見なす。
- ⑨ [ 逃避 ] : 欲求が満たされない場面から逃げる ( いわゆる 「 現実逃避 」 )。
- ⑩ [ 退行 ] : 以前の発達段階に行動様式が退行する ( いわゆる 「 幼児がえり 」 )。
- ⑪ [ 同一視 ] : 他者の服装・動作・考え方などを模倣し、一体感を味わうことで満足を得る。

### ✓ 解離

#### ➤ [ 解離 ] 【過】

- ⇒ 心理的不安定を回避・軽減する心理的作用の一つ ( プラス面 )。意識・記憶・人格が、現在の「自分」から切り離された状態になる精神症状 ( ①~⑤ ) を引き起こし、場合によっては疾患となる ( マイナス面 )。
- ① [ 健忘 ] : 自分の経験内容を忘却する。
- ② [ 離人 ] : 自分に対する非現実的な感覚。  
→ 例: 夢を見ている感じがする、自分が自分自身から分離され、離れたところから自分の行動を見ているように感じられるなど ( 体外離脱体験 )。
- ③ [ 疎隔 ] : 周囲の世界に対する非現実的な感覚。  
→ 例: 家庭や職場になじみがないように感じられる、家族や友人が見知らぬ人のように感じられるなど。
- ④ [ 同一性混乱 ] : 自分の同一性に対する不確実な [ 主観的感覚 ]。
- ⑤ [ 同一性変容 ] : 同一性が崩れ、異なった自我状態が出現する [ 客観的行動 ]。  
→ 例: [ 交代人格 ] の出現、自分の中に子どもがいるように感じ、行動に影響を与えるなど。

コメントの追加 [k1]: 【22A-5】人間の無意図的な心理的メカニズムである防衛機制と解離について、それぞれの次の諸点を踏まえて論述せよ。①どのようなものか、②具体的な例、③意識。

コメントの追加 [k2]: 【27A-5】解離とはどのようなものか、次の2点を含めて説明せよ。①解離の症状 ( 「 症状 」 であって「 病名 」 でないことに注意) を5つ上げること。②5つの症状の共通点は何か。1つの症状で具体的な例を上げて説明すること。

### § 03 精神病① ヒステリー

#### ✓ ヒステリー【過】

##### ➤ [ ヒステリー ]

- ⇒ 何らかの心理的問題によって突然に引き起こされる、精神症状や身体症状を伴う疾患（正式名称ではない）。
- 器質的な異常は皆無だが、詐病ではない。その原因については、様々な説が唱えられてきた（①～④）。
- A[ **解離性障害** ]： ヒステリーの精神症状。後述の種類（①～⑤）がある。
- B[ **転換性障害** ]： ヒステリーの身体症状。心理的問題が身体症状に「転換」することから、こう呼ぶ。解離性障害よりもよく見られる。痙攣する、耳が聞こえなくなる、声が出なくなる、手足が麻痺する、脈が速くなる、熱が出る、嘔吐、腹痛、下痢など、多彩な症状が含まれる。

##### ➤ ヒステリーの歴史

- [ **原始ヒステリー** ]： 科学が進歩する以前、世界中で見られたヒステリー。[ **学校教育** ]の普及に従って減少。日本の「狐憑き」・「犬神憑き」、アイヌの「イム」、蒙古族の「ペレンチ」、フランスの「オオカミ人間」など。
- フロイトによる研究： フロイトの時代、男性のヒステリー患者は、無学な[ **下層階級** ]に多く、鉄道敷設工事で事故に遭い脳や脊髄を損傷した患者に似た症状を示すことから[ **鉄道脊髄症** ]と呼ばれた。一方、女性のヒステリー患者は、教育を受けた[ **上流階級** ]に多く、フロイトの研究論文に登場する「アンナ、0」もその一人である。

##### ➤ ヒステリーの原因探求の歴史

- A[ **ヒステラ（子宮）** ]： 古代ギリシアでは、女性がヒステリーを発症する傾向にあることから、子宮が体内を移動することが原因だと考えた。誤りだが、体内に原因があると考えた点は優れている。
- B[ **悪魔憑き** ]： キリスト教が支配的だった中世ヨーロッパでの認識。患者は火刑に処された。
- C[ **動物磁気説** ]： 嗅のメスメルが提唱。鉄を含む液体を患者に飲ませ、磁石を当てることで治療。
- D[ **暗示** ]： [ **催眠療法** ]で知られる、仏の[ **シャルコー** ]が提唱。生理学が発達していなかった時代では、意識レベル（**覚醒水準**）を人為的に低下させ様々な暗示をかける[ **催眠** ]が、治療手段として用いられた（cf[ **睡眠** ]：覚醒水準の自然な低下）。シャルコーの弟子には、[ **フロイト** ]と[ **ジャネ** ]がいる。
- E[ **疾病利得** ]： ヒステリーが心理的問題の一時的な解決に寄与すること。心理的不安定を回避・軽減する[ **一次的疾病利得** ]、義務や責任を回避し、注目や愛情を得る[ **二次的疾病利得** ]がある。

##### ➤ [ ヒステリー性格 ]

- ⇒ ヒステリーになりやすい性格傾向。心理的問題を持つ人の全てが、ヒステリーを発症するわけではない。
- 例： [ **被暗示性** ]が高い（人の話を信じやすい、影響されやすい）。空想的である。恐怖感が強い。自己中心的である。記憶や気分がよく変わる。人の注意を引きたがる。自分をよく見せようとする。
- 原始宗教の[ **シャーマン** ]（巫者、呪医、祈祷師）は、ヒステリー性格の人物で、被暗示性が亢進している[ **トランス状態** ]で、[ **脱魂** ]や[ **憑依** ]といった解離の状態を起こしていた。

##### ➤ 解離性障害の種類

- ①[ **解離性健忘** ]： 重要な個人情報記憶を、広範囲にわたり喪失する。いわゆる「**記憶喪失**」。
- ②[ **解離性遁走** ]： ①の患者が放浪したり、本来の居住地とは異なる場所で生活したりする。
- ③[ **解離性同一性障害** ]： 複数の人格状態（同一性）が存在し、そのうちの一つが個人を支配している間、[ **解離性健忘** ]がみられる。いわゆる「**多重人格**」。
- ④[ **離人症** ]： [ **離人** ]の症状。遺族が感情を失う、いわゆる「**臨死体験**」など。
- ⑤[ **特定不能の解離性障害** ]： 神や先祖の霊、動物が乗り移るといった、いわゆる「**憑依**」。

**コメントの追加 [k3]:** [20S-2] 日ごろの厳しい稽古によって心身ともに強靱であるはずの大相撲のある力士が、重大な過失によって相撲協会から厳重な注意とともに出場停止の処分を受けたことによって、心身の不調を訴え解離性障害と診断された。このことについて、①解離性障害とはどのようなものか述べよ。②また、この力士が解離性障害に至った心理的メカニズムについて、防衛機制の心理と関連させて説明せよ。なお、解答には防衛機制の具体例・日常的な例を必ず含むこと。

**[24S-4]** ある会社で、大きなプロジェクトを任されていた社員が、自分のうっかりミスから、取引先の会社に1億円という多大な損害を与えてしまった。その後、精神的に不安定になり、病院に受診したら解離性障害であると診断された。このことについて、①解離性障害とはどのようなものか述べよ。②また、この社員が解離性障害に至った心理的メカニズムについて、防衛機制の心理と関連させて説明せよ。なお、解答には防衛機制の具体的・日常的な例を必ず含むこと。

§ 04 精神分析理論

✓ 精神分析理論【過】

➤ [ 精神分析理論 ]

- ・ ⇒ 頃の[ フロイト ]が様々な患者の治療経験から構築した、精神分析の理論。

➤ A[ 局所論 ]

- ・ ⇒ 人間の精神世界を[ 意識 ]・[ 前意識 ]・[ 無意識 ]に区分する考え方。
- ・ 人間は心理的安定を図るために、無意識のうちに不安・恐怖・苦痛などの感情を[ 抑圧 ]する（ここで、抑圧された感情を[ 葛藤 ]という）。しかし、抑圧後も、何らかのきっかけで葛藤が[ 意識化 ]されるリスクがあるため、[ 反動形成 ]などを通じて、実際とは異なる形に葛藤を変化させることで抑圧を補強する。
- ・ [ 心的決定論 ]では、人間の行動の原因を無意識のレベルに見出せると考える。
- ・ [ 前意識 ]： 意識と無意識の境にあり、努力によって意識可能である領域のこと。

➤ B[ 発達論 ]【過】

- ・ ⇒ 生物学を背景に、生物としてのヒトが持つ[ リビドー ]との関係で、性格形成を捉える考え方。
- ・ [ リビドー ]： 人間社会の中で生存し[ 子孫を残す ]のに役立つ精神的エネルギー。
- ・ 5つに区分される[ 精神分析的発達段階 ]において、身体の特定の部位に顕在化する[ リビドー ]が満足されない欲求不満が生じると（**固着**）、成長した後、リビドーの満足を欲求してその発達段階（**固着点**）まで精神的に戻ろうとする（**退行**）。その結果、特有の歪んだ性格や[ 習癖 ]が形成される。

発達段階	年齢	リビドーの満足方法
A[ 口唇期 ]	～[ 1.5 ]歳ころ	母親の乳房を吸う、嘔む。
B[ 肛門期 ]	1.5歳半～[ 3 ]歳ころ [ 肛門括約筋 ]の発達。	尿・便を保持する、排出する。
C[ エディプス期 ]	3～[ 6 ]歳ころ	性器に対する好奇心を持つ（ <b>小児性欲説</b> ）。性器いじり。異性の親からの愛情の独占（同性の親と自分の <b>同一視</b> ）。
D[ 潜伏期 ]	6～[ 12 ]歳ころ	（一時的にリビドーは潜伏する。）
E[ 性器期 ]	13歳～	異性愛に伴う性器の快感を得る。

- ・ 口唇期で固着が生じた者は、他者に過度に依存し愛情を求める[ 口唇性格 ]、指しゃぶりや爪かみなどの習癖が形成される。また、[ クレプトマニア（窃盗症） ]など問題行動に繋がることもある。
- ・ 肛門期で固着が生じた者は、反抗的・不道徳的な欲求や敵意を抱く[ 肛門性格 ]が形成される。肛門性格が不道徳な性格となる理由は、子どもの自律性の獲得と、母親による排泄のしつけとが、密接な関係にあるためである。
- ・ エディプス期で固着が生じた者（エディプス・コンプレックスが克服されなかった者）は、自信過剰で異性に対して誘惑的である反面、気が小さくておびえやすい[ エディプス性格 ]が形成される（「スネ夫」のイメージ）。

➤ [ エディプス・コンプレックス ]

- ・ ⇒ エディプス期にみられる、①異性の親に対する[ 性愛的願望 ]、②同性の親に対する[ 敵意 ]（しかし愛情もあるので、[ アンビバレント（両価的） ]な感情として表出）、③[ 罰せられる不安 ]という、3つの心理的要素の複合（×劣等感）のこと。
- ・ エディプス期の子どもは、異性の親からの[ 愛情の独占 ]という目標のために、同性の親と自分を[ 同一視 ]して倫理的価値観などを取り入れる。しかし、現実的に目標達成は果たされず、結局は、愛情の独占をあきらめたり、衝突の後に同性の親と和解したりして、エディプス・コンプレックスを克服することになる。
- ・ ギリシア神話を題材とするソフォクレスの悲劇に登場する[ オイディプス王 ]に由来。

**コメントの追加 [k4]:** 【23A-2 類、26S-1、27A-1、28S-1、28A-1、29A-2、30A-3】 強迫性障害や強迫性格が生じる心理的メカニズムを精神分析理論によって説明せよ。

**【26A-3、30S-1】** 主婦のエツコさんは、生ゴミの始末はゴム手袋をはめないとできない。ゴム手袋をはめても、生ゴミの始末の後は10分以上は手を洗わないと気がすまない。こうなったのはどうも幼児期に何かあったからだと思っているが、よくわからない。エツコさんがこのような症状を示すようになった心理的メカニズムを精神分析理論によって説明せよ。

**【24A-1】** 強迫性障害の基礎にある強迫性格が形成される心理的メカニズムについて、精神分析理論の局所論、構造論、発達論のそれぞれの観点から説明せよ。

**コメントの追加 [k5]:** 【20A-1】 精神分析理論では、子どもの道徳性はどのように発達すると説明するか。精神分析理論の発達論の観点から論述せよ。

## § 04 精神分析理論

### ✓ 精神分析理論

#### ➤ C [ 構造論 ]

- ⇒ 人間の心の働きを（意識・前意識・無意識の領域を超越する）3つの原則（①～③）に区分し、それらの力関係によって性格の違いを説明する考え方。
- [ 構造分析 ]: [ エゴグラム ]（質問紙法性格検査）を用いて、5つの自我状態のバランスを調べる。健全な性格では、3つの原則（あるいは、5つの自我状態）の力関係が調和していると考えられる。
- フロイトが最終的に到達した精神分析理論とされる。

#### ➤ ① [ イド (エス) ]

- ⇒ 生得的な本能的・自己中心的な欲求で、素直に快楽を求め苦痛を避ける [ 快楽原則 ]。
- イドの優越は、わがままで自分勝手な性格として表出する。
- いわゆる「**子どものな自我状態**」で、[ 交流分析理論 ]では、自由な [ FC ]、順応した [ AC ]に分類。

#### ➤ ② [ 自我 ]

- ⇒ 現実社会に適応するために、イドと超自我を調整する [ 現実原則 ]。
- 自我の優越は、情に欠ける過度な合理的な性格として表出する。
- いわゆる「**大人のな自我状態**」、交流分析理論では、[ A ]で表される。
- 構造論以後の精神分析は、「自我の発達を助けること」を目標とし、米で [ 自我心理学 ]として開花する。

#### ➤ ③ [ 超自我 ]

- ⇒ 成長の過程で親のしつけが内面化された、社会道徳的・倫理的な [ 良心 ]。
- 超自我の優越は、融通が利かないお堅い性格として表出する。
- 発達論的な見方では、幼児期（特に、[ 肛門期 ]）における過度な [ しつけ ]、[ エディプス期 ]における同性の親の超自我の [ 同一視 ]によって、イド・自我に対する優越が生じると考えられる。
- いわゆる「**親的な自我状態**」で、交流分析理論では、母親的な [ NP ]、父親的な [ CP ]に分類。

§05 性格形成① アタッチメント 【通】

✓ 生理的早産

➢ 就巢性と離巢性

- ・ スイスの[ **ポルトマン** ]は、鳥類の分類概念である[ **就巢性** ]・[ **離巢性** ]を、哺乳類に導入した。
- ・ ①[ **就巢性** ]： 妊娠期間→[ **短** ]、一回の出産数→[ **多** ]、誕生直後の自力行動→[ **不能** ]。  
→ 例：スズメ、ツバメなどの鳥類。ネズミ、ネコ、イヌなど、脳があまり発達しない哺乳動物。
- ・ ②[ **離巢性** ]： 妊娠期間→[ **長** ]、一回の出産数→[ **少** ]、誕生直後の自力行動→[ **可能** ]。  
→ 例：ニワトリ、カモなどの鳥類。サル、ウマ、クジラなど、脳がより発達する哺乳動物。

➢ [ **生理的早産** ]

- ・ ⇒ ヒトが、出産の都合上、胎児の脳が完全に発達する前に（本来よりも約[ **1** ]年早く）出産すること。
- ・ このため、ヒトは、本来は[ **離巢性** ]であるにも拘わらず、脳が完全に発達するまでの1年間、自力での移動・捕食が[ **不能** ]という[ **就巢性** ]の特徴を持つ（この状態の乳幼児を[ **子宮外胎児** ]という）。
- ・ 生理的早産は、外界からの刺激の増加によって[ **脳の発達** ]を促した反面、子の[ **生存可能性** ]を低下させ、親の養育が必須とした。したがって、子は、自身の生存可能性を高める戦略を必要とする。

✓ 愛着行動とアタッチメント

➢ [ **インプリンティング（刻印づけ、刷り込み）** ]

- ・ ⇒ [ **離巢性** ]の鳥類や哺乳類が備える、子の生存戦略（種の維持戦略）。嗅の[ **ローレンツ** ]が発見。  
⇒ 誕生後のごく初期の時間内での刺激対象を親と思い込み、幼少期にその刺激対象への[ **追従反応** ]を示す。成長後には、インプリンティングした刺激対象と同じ種の異性に対してのみ、[ **求愛行動・生殖行動** ]を示す。

➢ [ **愛着行動（アタッチメント行動）** ]

- ・ ⇒ ヒトが備える、子の生存戦略（子宮外胎児は自力行動が不能なので、インプリンティングも不可能）。  
⇒ 親との接触を維持し、親に対して「かわいい」・「愛らしい」表情・動作・声などを発して注意を引く。
- ・ ①[ **信号行動** ]： 運動機能が発達する以前の愛着行動。例：[ **注視** ]・[ **微笑** ]・泣く・[ **喃語** ]。
- ・ ②[ **接近行動** ]： 運動機能が発達して以後の愛着行動。
- ・ 乳幼児は、人間の顔を好んで注視し（： **ファンツの選好注視実験**）、当初は無差別に愛嬌を振りまく（ **3カ月微笑**）が、ある程度成長すると、常に応答する特定の大人（養育者）以外の者に対して、「 **人見知り** 」を示すようになる（ **7カ月微笑**）。

➢ [ **アタッチメント** ]

- ・ ⇒ 頻繁な[ **母子相互交渉** ]（子の愛着行動と母親の応答）で成立する、乳幼児と母親との心理的な結びつき。
- ・ アタッチメントの成立によって初めて、乳幼児は安心し、安定した性格・情緒が形成される。  
⇔ アタッチメントが成立しないと、他者への無気力・疑り深さが定着し、不安定な性格・情緒が形成される。
- ・ 子どもの発達を研究した英の[ **ボウルビィ** ]が、「生得的な子ども側の行動」に着目し、概念化した。  
← フロイトが重視した「リビドーを満たす母親側の行動」のみでは説明がつかない部分があると考えた。

コメントの追加 [k6]: 【20S-4、23S-4、25S-1】 生後1

～2年の乳幼児期の経験がその後の性格形成にとって極めて重要であることを、次の（ ）内の語句をすべて用いて説明せよ。なお（ ）内の語句を用いた箇所は、初出に限りアンダーラインを付して示すこと。（愛着行動、内的作業モデル、積極性、生理的早産、自己評価、就巢性、離巢性）

【28A-4】乳幼児期の母子関係がその後の性格形成および精神的健康に及ぼす影響について論述せよ。なお、解答には次の3点を必ず含めること。①生理的早産、②内的作業モデル、③アタッチメント・システム。

【24A-4】乳幼児期の母子関係がその後の性格形成に及ぼす影響について説明せよ。なお、解答には次の2点を必ず含めること。①生物としてのヒトという観点、②内的作業モデルという考え方。

【24S-1】乳幼児期の経験がその後の性格形成について及ぼす影響について、①「生物としてのヒト」という観点、および②アタッチメント理論の観点の2つを含めて説明せよ。

## § 05 性格形成① アタッチメント

### ✓ アタッチメント・スタイル【過】

#### ➤ [ ストレンジ・シチュエーション法 ]

- ・ ⇒ [ **アタッチメントの質** ]を評価する実験手法。ボウルビイの助手、[ **エインスワース** ]が考案。
- ・ ← ボウルビイは、当初、愛着行動に個人差が生じる理由を、アタッチメントの質に求めた。
- ・ 慣れない実験室の環境、見知らぬストレンジャーの存在、母親との分離といったストレス状態において、満1歳前後の子どもの行動を観察する。子どもの行動は、以下のタイプ（①～④）に分類される。
- ・ ①[ **B** ]型=[ **安定型** ] : 母親への愛着を示す。
- ・ ②[ **A** ]型=[ **不安定-回避型** ]: 母親への愛着を示さず、回避する。
- ・ ③[ **C** ]型=[ **不安定-両価型** ]: 母親への愛着を示すが、怒りなど不安定な情緒でそれを示す。
- ・ ④[ **D** ]型=[ **不安定-無秩序・無方向型** ]: 一貫性のない行動パターンを示す（A～C以外）。
- ・ この幼少期のアタッチメントの傾向の類型を[ **アタッチメント・パターン** ]という。
- ・ D型は、エインスワースの研究を継承した、メインとソロモンが発見。

#### ➤ [ 内的作業モデル ]

- ・ ⇒ 自らの行動に対する[ **母親の反応** ]について、[ **心的表象（イメージ）** ]の形で小規模なシミュレーションを行うためのモデル。乳幼児期の[ **母子相互交渉** ]の経験に基づき、構築される。
- ・ 成長の過程で内的作業モデルは拡張され、他の事象についても適用されるようになる。

#### ➤ [ アタッチメント・スタイル ]

- ・ ⇒ 他者に対するアタッチメントの傾向が、個人特有のスタイルとして確立されたもの。
- ・ ①[ **安定型** ]: 安定したアタッチメント。適度な愛着行動を示す。
- ・ ②[ **回避型** ]: 不安定なアタッチメント。愛着行動を示さない。
- ・ ③[ **不安型** ]: 不安定なアタッチメント。過剰な愛着行動を示す。

#### ➤ ストレスとアタッチメント

- ・ アタッチメント・スタイルのあり方は、[ **ストレス** ]に対する耐性に影響する。
- ・ [ **安定型** ]のスタイルは、ストレス場面で愛着行動を誘発し、安定した心理状態の回復に寄与する。
- ・ → アタッチメントは、人間関係を説明する概念というよりも、生存に適応的な生物学的・本能的な仕組み、[ **アタッチメント・システム** ]として捉えることができる（実際、ボウルビイはのちに定義を変更）。

**コメントの追加 [k7]:** 【25S-3、26A-2、28S-4、29A-2、30S-2、30A-2類】乳幼児期の母子関係が、成長した後でストレスや脅威を感じたときの対処行動に影響することについて論述せよ。なお、解答には次の2点を必ず含めること。①アタッチメントと内的作業モデルという考え方。②アタッチメント・システムという考え方。

**【27A-4】** 次のような対人関係の特徴を示す高校生A、Bがいる。A「受け入れられたい、認めてもらいたいという欲求が強い。何かストレスに感じるものがあつたら、友人に長時間、話を聞いてもらわないと気がすまない。相手に迷惑がられていると感じても、話を聞いてもらわないと不安である。しかし、その反面、友人から拒絶されるかもしれないということに非常に敏感である」。B「距離をおいた人間関係を好む。親しい友人関係に煩わしさを感じる。何かストレスに感じるがあつても、だれかに話を聞いてもらう、相談するということはない。つきあっている恋人にも聞いてもらおうとすることはあまりない。反対に恋人が困って話を聞いてほしいと言っても、煩わしさを感じ、あまり聴こうとしない」。この2人がそれぞれこのような対人関係に関する行動パターンをとるようになった背景として考えられることをアタッチメント理論の考え方をを用いて説明せよ。

**【21S-1】** 最近、多くなってきている乳幼児虐待の問題点を、アタッチメント理論の立場から述べよ。



§06 性格形成② 愛着障害 【過】

✓ 虐待と心的外傷

➤ [ 児童虐待 ]

- ⇒ 子どもに対する惨い扱い。以下の4種類(①~④)に分類される。
- ①[ 身体的虐待 ] : 子どもに対する身体的な暴行による虐待。  
← 暴行に際し、親は身勝手な言い分である[ 「悪い子」メッセージ ]を發し、子の[ 自尊感情 ]を損ねる。
- ②[ ネグレクト ] : 後述。
- ③[ 性的虐待 ] : 保護者的な立場の大人が、子どもに性的な行為(性行為に限らない)をする虐待。
- ④[ 心理的虐待 ] : 子どもの存在自体を否定するようなメッセージを与え続ける虐待。

➤ [ 境界性パーソナリティ障害 ] 【過】

- ⇒ 以下の特徴(A~B)をもつパーソナリティ障害(→§12)。
- A[ 不安定な気分と対人関係 ] : 中間がなく、極端である。また、両極端を[ 往復 ]するのも特徴的。
- B[ 自己破壊的行動 ] : [ 見捨てられ不安 ]、[ 自己否定感 ]、[ 慢性的な不安全感 ]に囚われ、他者の関心を引こうとする、自殺を企図する、あるいは過剰な飲酒・薬物依存・乱交などで満足感を得ようとする。
- ← これらの特徴は、生得的なものではなく、[ 生育歴 ]の中でもたらされたものである。

➤ [ 心的外傷後ストレス障害(PTSD) ]

- ⇒ 強いストレスである[ 心的外傷体験 ]によって、後々も精神的な後遺症(A~C)が現れる疾患。
- A[ 再体験 ] : 心的外傷体験が生々しい身体感覚を伴って蘇り、激しい感情反応( 驚愕反応 )が起こる。  
← 学習によってHPA系の反応が活性化し、小さいストレス刺激でも大きなストレス反応が起こる。
- B[ 回避 ] : 心的外傷体験に関連した刺激を持続的に避け、全般的な[ 反応性の麻痺 ]が起こる。
- C[ 覚醒の亢進 ] : [ 興奮状態 ]が持続する。BとCの結果、アンバランスな心理状態になる。

✓ ネグレクトと発達障害 【過】

➤ [ ネグレクト ]

- ⇒ 暴力を伴わず、養育の放棄という形をとる虐待。
- 子どもは、[ アタッチメント ]の形成不全によりストレスに対して脆弱で、[ 発達障害 ](A~C)に陥る。

➤ 発達障害 【過】

- A[ 発育不良 ] : ①[ 成長ホルモン ]分泌の減少(←睡眠障害←【B】、←副交感神経の抑制)。  
②栄養失調(←消化不良←【C】)。
- B[ 高い死亡率 ] : 【C】免疫の抑制。
- C[ 情緒的・対人的な歪み ]  
← 【A】~【C】については、ストレス病(→§07)のメカニズムを参照。

➤ [ 愛情遮断性症候群 ]

- ⇒ ネグレクトを受けた子どもが、栄養が十分に与えられているにも拘わらず発育不良であること。

➤ [ ホスピタリズム ] 【過】

- ⇒ かつて[ 児童養護施設 ]の子どもにみられた発達障害。
- 施設のあり方が見直され、保育者の不足、交代での保育といった原因が除去されたことで、根絶。
- 施設出身者は発達障害のためにうまく子育てができず、[ 施設二世 ]が再生産されるという問題もあった。

コメントの追加 [k8]: 【30S-4】 幼児期の虐待がその後  
に及ぼす影響として、①境界性パーソナリティ障害、  
②愛情遮断性症候群のそれぞれについて説明せよ。

コメントの追加 [k9]: 【23S-1】 身体的虐待と境界性人  
格障害について次の各問いに答えよ。①境界性人格障  
害の人の生育歴を調べてみると、幼少時に身体的虐待  
を受けている場合が多いが、幼少時に身体的虐待を経  
験した子どもがその後、境界性人格障害になっていく  
プロセスについて述べよ。②境界性人格障害の特徴と  
して自己破壊的行動がある。境界性人格障害の人が自  
己破壊的行動をするのはなぜか。境界性人格障害の心  
理的特徴を3つあげて説明せよ。

コメントの追加 [k10]: 【23S-2、25S-4】 愛情遮断性症  
候群とホスピタリズムについて、①それぞれどのよう  
なものか説明し、②2つに共通して見られる症状をあ  
げ、それが見られるのはなぜか生理学的な観点から説  
明せよ。

コメントの追加 [k11]: 【23A-5、24A-4、28S-5、28A-  
2】 家庭でネグレクトされた子どもや、かつての施設に  
収容された子ども(あくまで「かつての」)である。現  
在はみられない)は、食事は十分に与えられていて  
も、発育が悪く体格が小さいことが多い。どうしてこ  
のようなことが起こるのか。そのメカニズムについて  
考えられることを、ストレス反応の観点から説明せ  
よ。

コメントの追加 [k12]: 【26A-4】 幼児期のネグレクト  
がその後に及ぼす影響として、ホスピタリズムを例に  
あげて説明せよ。

§07 精神病② ストレス病

✓ ストレス反応

➤ ストレス刺激とストレス反応

- ・ [ **ストレス反応** (ストレス) ]: 外部の[ **ストレス刺激** (ストレッサー) ]に[ **適応** ]するために生じる、刺激の種類に依らない、[ **非特異的** ]な[ **生理的** ]反応。カナダの[ **セリエ** ]が命名。
- ・ 人類は、進化の過程で、生存を脅かす[ **天敵** (大型肉食獣) ] (=ストレス刺激) に遭遇した際のために、「闘うか逃げるか」に都合が良く、生存に有利な[ **身体反応** ] (=ストレス反応) を獲得した。
- ・ 危機的状況に遭遇した身体は、以下の2つのストレス反応を精巧に調和させて対処する。

➤ ①[ **HPA系** ]のストレス反応

- ・ ⇒ [ **内分泌系** ]の[ **緩慢** ]な反応(「宅急便」)。命令経路は、[ **視床下部** ]→[ **脳下垂体** ]→[ **副腎皮質** ]。
- ・ 副腎皮質から[ **コルチゾール** ]などのホルモン( **ストレス物質** )が分泌され、ストレス反応が生じる。
- ・ 【A】[ **酸素** ]と[ **エネルギー源** ]を筋肉(特に脚)に供給する反応: [ **呼吸量**、**血圧**、**心拍数** ]の上昇。脾臓での[ **血液成分** ]の放出。肝臓での[ **糖質**、**脂肪** ]の放出。食欲の亢進による多量摂取。
- ・ 【B】想定されるリスクに対処する反応: 血管の[ **収縮** ](嘔まれて出血するリスクへの対処)。**[ 覚醒水準 ]**の上昇(襲われるリスクへの対処)→[ **瞳孔** ]の拡大、[ **意識** ]の鮮明化。
- ・ 【C】当座の生存に不要な機能を制限する反応: [ **消化**、**免疫** (骨髄での白血球生成)、**性欲** ]の抑制。

➤ ②[ **神経** ]のストレス反応

- ・ ⇒ [ **神経系** ]の[ **迅速** ]な反応(「電話」)。命令系統は、[ **視床下部** ]→[ **交感神経** ]→[ **副腎髄質** ]。
- ・ 副腎髄質から[ **ノルアドレナリン**、**アドレナリン** ]が分泌され、HPA系と同様のストレス反応が生じる。

➤ [ **自律神経** ]

- ・ ⇒ 臓器や組織の働きを調節する[ **不随意** ]神経。[ **交感神経** ]と[ **副交感神経** ]がある。
- ・ 両者の機能は正反対で、一方が活性化すると一方は抑制。両者の調和が崩れると、[ **自律神経失調症** ]になる。
- ・ [ **交感神経** ]: 日中優位で、短期間にエネルギーを使い身体を活発化させて興奮状態を作る方向に作用する。
- ・ [ **副交感神経** ]: 夜間優位で、[ **成長**、**免疫** ]など長期的に生体に有利な作用に働く。

✓ 心身症

➤ [ **心身症** ]

- ・ ⇒ 心理的問題が密接に関与する身体疾患。心精神身体医学(心身相関を研究)を扱う[ **心療内科** ]で治療。

➤ [ **ストレス病** ] **[ 過 ]**

- ・ ⇒ 仕事の多忙や人間関係などに対して、持続的・頻繁にストレス反応を起こすことで発症する心身症。  
← ストレス反応は[ **非特異的** ]な生理的反応であり、生存に直接は関係しない心理的刺激に対しても生じる。
- ・ どの症状が発現するかは、患者の[ **遺伝的・体質的素因** ]の影響を受ける( **素因ストレスモデル** )。

A [ <b>糖尿病、動脈硬化</b> ]	【A】血中の糖質・脂肪・コレステロール濃度の上昇。
B [ <b>動悸、高血圧、脳梗塞・心筋梗塞</b> ]	【A】血圧の上昇、【B】血管の収縮(→血栓による血管の閉塞)。
C [ <b>睡眠障害</b> ]	【B】覚醒水準の上昇。
D [ <b>感染症</b> ]	【C】免疫の抑制(白血球の不足)。
E [ <b>がん</b> ]	【C】免疫の抑制(がん細胞を破壊する[ <b>NK細胞</b> ]の不活性)。
F [ <b>消化不良</b> ]	【C】消化の抑制。
G [ <b>胃潰瘍</b> ]	胃酸(攻撃因子)が強くなる一方で、粘膜(防御機能)が弱まる。

**コメントの追加 [k13]:** 【20A-3、22A-2、24A-3】学校で毎日、「ウザい」などことばによるいじめを受けた高校生が、①高血圧、②持病の糖尿病の悪化、③不眠、④胃潰瘍、⑤かぜをひきやすいといった、多彩の身体症状が現れるようになった。このことをHPA系の反応と神経系のはたらきから説明せよ。

【29A-3】学校で毎日「ウザい」「お願い!死んでください」などことばによるいじめを受けた高校生が、①高血圧、②不眠、③胃潰瘍、④かぜをひきやすいといった、多彩な身体症状が現れた。このことをHPA系のストレス反応から説明せよ。

【27A-3】ある高校生が学校で毎日「ウザい」「死ね」などと言われる、教科書に「お願いします。死んでください」と落書きされる、持ち物が隠され、ゴミ箱から出てくるなどのいじめを受けた。すると、①高血圧、②持病の糖尿病の悪化、③不眠、④胃潰瘍、⑤かぜをひきやすいといった、多彩な身体症状が現れるようになった。このことをHPA系の反応という観点から説明せよ。

## § 08 精神病② 気分障害

### ✓ 気分障害

#### ➤ [ 気分障害 (感情障害) ]

- ⇒ 気分に関する障害を持つ精神病の一群。幅広い精神疾患が含まれる。
- 女性の方が、男性の[ 3倍 ]発症しやすいことが分かっている。
- 気分障害になり易い[ 病前性格 ]があり、典型的な病前性格の保有者は治療が容易。

#### ➤ ①[ 鬱病性障害 ] (かつて「 単極性鬱病 」)

- ⇒ [ メランコリー (抑鬱状態) ]のみを示す、[ 単極型 ]の気分障害。
- A[ メランコリー型鬱病 ]: 典型的な鬱病性障害[ 大鬱病性障害 ]のうちのさらに典型。
- B[ ディスチミア型鬱病 (気分変調性障害、かつて「抑鬱神経症」) ]: 軽度の抑鬱状態が慢性的に続く。
- [ 体液説 ]を提唱した古代ギリシアの[ ヒポクラテス ]は、四体液 (血液・黄胆汁・黒胆汁・粘液) のうち、[ 黒胆汁 ]が優勢になることが原因だと考え、[ 薬物療法 ]をとった (メランコリーは、黒胆汁を意味する)。

#### ➤ ②[ 双極性障害 ] (かつて「 躁鬱病 」)

- ⇒ メランコリーに加えて[ マニー (躁状態) ]を示す、[ 双極型 ]の気分障害。独の[ クレペリン ]が提唱。
- 双極性障害になりやすい病前性格を[ 循環気質 ]という。
- 生涯有病率は、鬱病性障害に比べて低い。

### ✓ 生物学的メカニズム

#### ➤ 神経伝達物質

- 神経細胞は、細胞体・[ 樹状突起 ]・[ 軸索 ]から成る。
- 神経細胞は、微細な電気信号である[ 活動電位 (インパルス) ]を発しており、これが神経細胞のネットワークを行き交うことで、人間の精神的な営みが行われている。樹状突起で受け取られた活動電位は、軸索によって別の神経細胞に伝えられる。
- 軸索の末端は、細かく枝分かれした[ 神経終末 ]であり、[ シナプス ]により別の神経細胞と接続している。軸索の周りには[ 髄鞘 ]という絶縁物質でおおわれており、活動電位の伝達を効率化している。
- 活動電位が伝わらない神経細胞間の[ シナプス間隙 ]での情報伝達は、神経細胞が酵素によって合成し神経終末の[ シナプス小胞 ]に貯蔵する[ 神経伝達物質 ]が放出され、隣接する神経細胞の[ 受容体 ]と結合することによって行われる。[ 感情 ]は、その感情を司る脳の部位に信号が伝達されて初めて生じる。

#### ➤ [ モノアミン仮説 ]【過】

- ⇒ [ モノアミン類 ]とよばれる神経伝達物質の減少が、生物学上の病気である抑鬱状態の原因だとする仮説。
- 例: 「意欲」を伝達する[ ノルアドレナリン ]、「幸福感」を伝達する[ セロトニン ]。
- 大戦後のドイツでは、[ V2ロケット ]の燃料・ヒドラジンから、結核治療薬・イソニアジドが生成された。のちにその副作用として抗鬱効果が判明し、実験手法の発展によりモノアミン仮説が提起された。
- 抗鬱薬は、モノアミンの分泌の促進、モノアミンを分解する酵素の働きの阻害、シナプス前細胞でモノアミンの分泌量を調整している[ トランスポーター ]による[ 再取り込み ]や[ 自己受容体 ]の働きの阻害などによって、モノアミンの放出量を持続的に促進する。症状が軽い時期の方が効きやすい。
- ⇔ 躁状態では、[ ドーパミン ]や[ グルタミン酸 ]などの興奮性の神経伝達物質が過剰に反応している。

コメントの追加 [k14]: 【28A-5、29A-4】①うつ病は「心の病気」とよくいわれるが、その症状の背景には生物学的なメカニズムが関わっている。この生物学的なメカニズムについて説明せよ。

§ 08 精神病② 気分障害

✓ 鬱病の素因【過】

➤ [ 素因ストレスモデル ]

- ・ ⇒ 精神病理的の症状は、一定の[ 素因 ]を持つ人が[ ストレス状況 ]を体験することで起こる、とするモデル。
- ・ ①生物学的素因： [ モノアミン類 ]の分泌の不調をもたらす、遺伝的体質的素因（→参照：前項）。
- ・ ②心理学的素因： 成功事態で[ 外的・不安定 ]、失敗事態で[ 内的・安定 ]と、通常とは真逆の[ 原因帰属 ]をする[ 抑鬱的原因帰属スタイル ]に基づく、先の見通しを暗くし[ 自尊感情 ]を低下させる[ 抑鬱的認知 ]。

➤ 自己評価と自尊感情

- ・ 自己に関するイメージを[ 自己概念 ]といい、[ 自己評価 ]の基盤となる。
- ・ 人は安定的な心理状態を「無意識的に」求め、肯定的な自己評価により[ 自尊感情 ]を高める（ 自己評価欲求 ）。

➤ A [ 自己評価維持理論 ]【過】

- ・ ①[ 反映 ]： 知人友人の価値を積極的に認め、その者の知人友人であることに価値を見出す。
- ・ ②[ 比較 ]： 知人友人と自分の価値を比較し、優越感を得る。
- ・ → 「反映」や「比較」の対象として自己評価の維持（高揚）の機会を提供する者を、いつもそばにいる[ 友人 ]として選ぶ。逆に、自己評価の維持（高揚）に悪影響を与える者とは、疎遠となる。

➤ B [ 自己評価高揚理論 ]【過】

- ・ ①[ 内集団的態度 ]： 自己が所属する[ 内集団 ]の「相対的」価値を主張する（あるいは、外集団を貶す）。
- ・ ②[ 利己的な帰属のバイアス ]： 成功事態で「内的・安定」、失敗事態で「外的・不安定」な原因帰属をする。
- ・ ③[ セルフハンディキャップ方略 ]： 成功の確信がない場合、自らに不利な条件を課してそれを喧伝する。  
→ 例： 試験前日に敢えて勉強しない。アルコールを摂取する。  
← この背景には、2つの原因が想定される場合、一方が強調されると他方の影響の度合いが割り引いて認識されるという[ 割引原理 ]がある。
- ・ ④[ 栄光浴 ]： 自己評価維持理論における[ 反映 ]と同じ。

**コメントの追加 [k15]:** 【20S-5、21S-4類、23S-5、26S-2、30A-4】大きな失敗をしたり、連続して失敗を経験したりすると、落ち込む、気分が沈む、憂うつになるなどの抑うつ感情をだれもが感じる。しかし、それが高じて抑うつ状態やうつ病にまでなるかという、そのようになる人もいなければならない人もいる。このことを素因ストレスモデルという考え方から論述せよ。

**【28A-5、29A-4】**②また、うつ病になりやすい何らかの心理学的特徴があるともいわれている。この心理学的特徴について述べよ。

**【26A-1】**うつ病になりやすい人の生物学的・心理学的特徴について述べよ。

**コメントの追加 [k16]:** 【25S-5類、30A-5】ある町に非常に仲のよい野球少年の兄弟がいた。野球以外にも、1歳違いの兄弟は何をするのも一緒に、高校生になっても近所では有名な仲よし兄弟だった。その後、2人はプロ野球の同じチームに入り、話題になった。しかし、兄は5年後には戦力外通告を受けて引退したのに対して、弟は年俵2億円の中心選手になった。そのころから些細なことで兄弟仲が悪くなった2人は口もきかなくなり、交流もまったくなくなってしまった。ここで問題である。あれほど仲のよかった兄弟2人が口もきかなくなり。果ては交流もまったくなくなるにいたった心理を自己評価維持理論によって説明せよ。

**【24A-5、28A-3、30S-3】**「自分の心はわかりにくい」という考え方がある。それは、人の自尊感情を高めようとして（低下するのを防ごうとして）、無自覚的・無意識的に「あの手この手」を使っていることからわかる。この「あの手この手」の心理に関連して次の各問いに答えよ。[問2]「自己評価維持理論」について説明せよ。

**コメントの追加 [k17]:** 【28S-3】ある高校生マリ子さんは期末試験前に、苦手な科目はまったく勉強しないで試験にのぞむ。また、別の高校生たろう君は、期末試験当日、学校でよく「どうしよう。ぜんぜん勉強してきてない」としきりに周囲に話す。この2人の高校生の心理をセルフハンディキャップ方略という観点から説明せよ。

## § 09 精神病④ 不安障害

### ✓ 対人不安

#### ➤ 自我と自己

- ・ 主体的に行為する自分を[ 自我 (ego) ]、客体的に意識される自分を[ 自己 (self) ]という。
- ・ 自己には、他者が観察できる外面の[ 公的自己 ]、他者が観察できない内面の[ 私的自己 ]がある。

#### ➤ [ 自覚状態 ]

- ・ ⇒ 自己に注意が向けられる状態。
- ・ [ 公的自覚状態 ]では、他者からの視点を介して公的自己に注意が向けられる。
- ・ [ 公的自己意識特性 ]が強い人は、「自分は、他者よりも注目や批判の対象になりやすい」という認知の歪み ( 自己標的バイアス ) が強く、対人場面で公的自覚状態になりやすい (いわゆる「自意識過剰」)。

#### ➤ [ 対人不安 ]

- ・ ⇒ 対人場面でストレスが高まること。
- ・ 公的自己意識特性が強い人が陥りやすく、鬱病と同様に、[ 素因ストレスモデル ]で説明できる。

### ✓ 対人恐怖

#### ➤ [ 不安障害 (神経症) ]

- ・ ⇒ 不安を主症状とする精神病。精神疾患の中でも、症状が比較的軽い。

#### ➤ A [ 社会不安障害 (対人恐怖) ] [ 過 ]

- ・ ⇒ 対人場面で過剰に不安や緊張にとらわれ、対人場面を避けようとする不安障害。
- ・ 症状には、[ 視線恐怖 ]、[ 赤面恐怖 ]、[ 自己臭恐怖 ]、[ 醜貌恐怖 ]など様々な形態がある。
- ・ 対人恐怖は、青年期に特徴的。  
← [ 第二性徴 ]の発現により身体が変化する青年期では、概して公的自覚状態になりやすくなるため。

#### ➤ B [ 強迫性障害 ] (×「脅迫」) [ 過 ]

- ・ ⇒ [ 強迫観念 ]にかられ、その不安や苦痛の解消のため、無意識的に[ 強迫行為 ]をとってしまう不安障害。
- ・ 強迫行為が強迫観念の解消 (疾病利得) に結びつくメカニズムは、[ オペラント条件付け ]で説明される。
- ・ 患者には、特徴的な[ 強迫性格 ]の傾向がある。  
→ 例： 完全主義で几帳面。過度に良心的。柔軟性に欠ける。
- ・ 強迫性格は、無意識下での不道徳な性格 ( 肛門性格 ) が無意識下で抑圧され、さらに[ 超自我 ]の優越に基づく[ 反動形成 ]によって姿を変えたものだと考えられる (参照：精神分析理論→ § 04)。

**コメントの追加 [k18]:** [25S-3、27A-1] 大学1年生のタロウ君は幼少のころから、だれとでも気さくに話せる陽気な性格の持ち主だった。ところが、中学2年生のころから人と接する際に強い不安や緊張を感じるようになり、高校2年生のころからは学校にいるときや近所を歩いているときに、周囲の人から見られていると感じるようになった。そして、それは現在でも続いているという。このタロウ君についてどのように理解できるか、素因ストレスモデルという観点から論述せよ。

**[22A-3、24S-3]** 高校3年生のタロウ君は中学校2年生ごろから、他人の前に出ると緊張する、人が自分のことを見ているような気がするなどの症状で悩んでいる。そのような症状は、自室に1人でいるときには特に現れないが、学校で教室や廊下で頻繁に現れる。高校3年生になったとき、思い切って病院を受診したら「いわゆる対人恐怖ですね。中学校、高校生にこのような症状はよく見られるから特に心配いりませんよ」と言われた。このようなタロウ君の症状について、素因ストレスモデルという考え方から説明せよ。

**[21S-2類、23A-4]** 対人不安や対人恐怖は青年期特有のものであるといわれる。しかし、青年期にある人がすべて対人不安や対人恐怖になるかという、そうではない。対人不安や対人恐怖になる人もいれば、ならない人もいる。このことを素因ストレスモデルという考え方から論述せよ。

**コメントの追加 [k19]:** → § 04 (精神分析理論)

## §10 精神病⑤ 摂食障害

### 1 摂食障害

#### > [ 摂食障害 ]

- ⇒ いわゆる「拒食症」と「過食症」の総称。[ 1960年代 ]に増加した、現代の疾患。
- [ 青年期 ]特有の疾患で、成人での発症は稀。十代でのダイエット開始を契機に発症する[ 女子 ]の症例が多い。  
← 思春期女子は、精神的発達が伴わない段階に大きな身体変化を経験し、それに否定的感情を持ちやすいため。

#### > A[ 神経性食欲不振症 (拒食症) ] (=「 聖的 」な摂食障害)

- 過剰なダイエットに伴う、体重減少、著しい痩せ、[ 無月経 ]、低体温、低血圧、[ 徐脈 ]などの身体症状。
- 特徴的心理： A[ 痩せ願望 ]や[ 肥満恐怖 ]、B[ 身体像 ]の歪み、C[ 女性性 ]の否定・[ 幼児性 ]の憧れ。
- 自分が病気であるという認識 ( 病識 ) はなく、むしろ[ 過運動 ]である (←過食症には見られない2特徴)。
- 単なる摂食制限の[ 制限型 ]と、過食と[ 自己誘発嘔吐 ]・[ 下剤濫用 ]を伴う[ むちゃ食い・排出型 ]がある。
- 死亡率は[ 約 5% ]。死因は、A[ 低栄養状態 ]による[ 合併症 ]、B[ 薬物乱用 ]に伴う事故、C[ 自殺 ]。
- 盗み (過食時に食べ物を盗む)、飲食の強要 (自分は食べず他人に料理を振る舞う) などの問題行動にも繋がる。

#### > B[ 神経性過食症 (過食症) ] (=「 俗的 」な摂食障害)

- [ むちゃ食い ]と[ 排出行動 ]が、週2回・3カ月以上、継続している。
- 3つの特徴的心理は[ 弱い ]ものの、拒食症と共通している。過食後に[ 罪恶感 ]を覚える。病識は[ ある ]。
- 平常時は厳しいダイエットを行っているが、コントロール困難な[ 衝動性 ]が過食として表出する。
- 多くの場合、神経性食欲不振症から移行するが、単独で生じることもある。

### ✓ 摂食障害の心理的背景【過】

#### > A[ 達成感 ] (意識される心理)

- ダイエット成功の[ 達成感 ] (達成感を得る方法は他にもあるため、本質ではない)。

#### > B[ 「成熟・自立」の拒否 ] (意識されない心理)

- 「 大人の身体への抵抗感 」と、[ 自尊感情 ]の低さによる「 社会人生活への不安感 」。

#### > C[ 自己肯定感 (自尊感情) ] (意識されない心理)

- 「 社会人生活への不安感 」を充足する、「 有能である 」という自尊感情 (これが本質)。  
→ 摂食障害患者の目標は、容易に「 体型 」から「 数値 (体重) 」にすり替わってしまう。
- 由来①： 一般的に「 痩せ 」が、「 有能、美しい 」など肯定的評価と結びついていること。
- 由来②： [ リバウンド ]を防ぎ体型を維持するのは困難という社会通念が存在すること。  
← リバウンドの必然性は、「 [ 食欲 ] と [ 基礎代謝 ] 」は、年齢に応じて発現する遺伝子が規定する[ 正常体重 ]が維持されるよう変動する」という[ 体重のセットポイント説 ]によって説明される。

### ✓ 摂食障害の歴史的社会的背景【過】

#### > A[ 社会での成功者 ]の象徴としての「 痩せ 」

- 資本家階級が[ 貴族趣味 ]でスリムな体型を望み、「 痩せ 」が[ 成功の条件 ]という誤ったイメージが定着した。  
← 新大陸原産の[ ジャガイモ ]で栄養状態が改善して以降[ 美食 ]をステータスとした[ 富裕階級 ]に倣った。
- 医学的知識の普及から[ 自己管理 ]の重要性が一般的に認知されるようになり、イメージの定着に寄与した。
- この傾向は[ 20世紀 ]に顕著になり、[ 競争社会 ]で「 痩せ 」への信仰が絶対的なものとなった。

#### > B[ 女性 ]の本格的な社会進出 ( 1960年代 )

- 男女平等が実現し[ ヒステリー ]の症例が減少した一方で、男性中心の社会への不安は根強く残った。

#### > C[ 苦行 ]だったダイエットの[ プーム化 ] ( 1970年代 )

- 摂食障害患者の全体数が増加し、拒食症に加えて、過食症も見られるようになった。

#### コメントの追加 [k20]: [25S-2、30A-1] ①神経性食欲不振症患者のやせようとする心理について、意識される心理と意識されない心理に分けて説明し、(～)

【24A-5、28A-3】「自分の心はわかりにくい」という考え方がある。それは、人の自尊感情を高めようとして (低下するのを防ごうとして)、無自覚的・無意識的に「あの手この手」を使っていることからわかる。

この「あの手この手」の心理に関連して次の各問いに答えよ。[問1]摂食障害の人が極端にやせようとする心理について説明せよ。

【28S-2】①摂食障害に見られる「女性性の否定・幼児性への憧れ」という症状について、意識される心理と意識されない隠された心理に分けて説明し、(～)

【23S-1】①人は「自分の心は自分が一番よくわかる」と思っている。しかし、「自分の心は意外とわかりにくい」らしい。この「自分の心はわかりにくい」ということについて、摂食障害の人がやせようとする理由を例にあげて論述せよ。

コメントの追加 [k21]: [20A-2類、23S-1類、25S-2、28S-2類、30A-1] (摂食障害について) ②そのような意識されない心理について、19世紀以降の資本主義社会の発達と関連させて述べよ。

【21S-3類、22A-1、24S-5、25S-5、29A-5】ヒステリーや摂食障害のような心因性の精神疾患は時代や社会背景によって、その症状や様態が変化する。たとえば100年前の女性の場合、ヒステリーは意識消失発作や激しい全身のけいれんといった重篤な症状を示す例が多く、摂食障害という病気は極めて稀な病気だった。それが1950～1970年代には、意識消失発作や全身のけいれんといったヒステリーは減少し、不食を主な症状とする摂食障害が急増していった。さらにその後、摂食障害は過食・嘔吐ともなうものが増えていく。このヒステリーと摂食障害の一連の様態の変化について、社会的背景と関連して論述せよ。



## § 11 精神病⑥ 統合失調症

### ✓ 統合失調症

#### ➤ [ 統合失調症 ]

- ⇒ 思考・行動・感情を[ 統合 ]する能力が長期間にわたり低下し、適応的な行動がとれなくなる精神病。
- 症状の鎮静化のために投薬、再適応のために心理社会的なリハビリテーションを要する。
- [ ストレス脆弱性モデル ]: ストレスの[ 閾値 ]を想定する[ 素因ストレスモデル ]で、統合失調症の発症メカニズムを説明する(しかし、原因そのものは未解明)。一卵性双生児の[ 発症一致率 ]が60%であることは、環境的な要因が関与していることを示唆している(ちなみに、一卵性双生児の発症率の高さが知られている)。
- 英の[ クロウ ]が2種類に分類したが、そもそも単一の疾患と見なすことに疑いが持たれている。  
→①[ **I型(急性統合失調症)** ]: [ **ドーパミン** ]の過剰放出が関係しており、[ **抗精神病薬** ]で治療が可能。  
→②[ **II型(慢性統合失調症)** ]: 薬物に対する反応が不良。[ **脳室の拡大** ]が見られる(近年、判明)。
- 発症のピークは、[ 青年期 ]。発症率は[ 1% ]で、血縁者に患者がいると発症率も上がる。
- [ **早発性痴呆** ]として、独の[ **クレペリン** ]が最初に報告。スイスの[ **プロイラー** ]が研究を進め、[ **精神分裂病** ]と命名。近年になって[ **統合失調症** ]と改称されるまで、この語が用いられた。

#### ➤ ①[ 陽性症状 ]

- ⇒ 統合失調症の症状のうち、心の中に「本来はないものがある」状態。[ **I型** ]に特徴的。
- A[ **妄想** ] : 現実にはあり得ない、誤った[ **個人的** ]な観念。[ **不安** ]と[ **絶対的確信** ]を伴う。  
→ [ **迫害妄想** ]、[ **誇大妄想** ]、恋愛妄想、貧困妄想などが典型。
- B[ **幻覚** ] : 幻視や幻聴(幻聴が多)。Cをもたらず。Aを伴う場合、[ **幻覚妄想状態** ]と呼ぶ。
- C[ **作為体験(思考)** ]: 自分の体験(思考)が他者に「させられている」と感じる。  
← 自己と非自己、現実と非現実の境界が曖昧になっているために起こる。
- D[ **減裂思考** ] : 非論理的で理解不能な思考。
- Eその他 : 誇大性、猜疑心、敵意など。

#### ➤ ②[ 陰性症状 ]

- ⇒ 統合失調症の症状のうち、心の中に「本来はあるものがない」状態。[ **II型** ]に特徴的。
- 鬱病に類似するが、鬱病と異なり[ **病識** ]が無い。
- A[ **感情** ]の平板化、B[ **活動性** ]の低下、C社会性・疎通性の欠如、D[ **抽象的思考** ]の困難。

#### ➤ 初期症状

- A[ **妄想気分** ] : 漠然とした不気味な気分。
- B[ **トレマ** ] : 圧迫感・緊張感・不安感・高揚感が入り混じったもの。
- C[ **神経衰弱状態** ]: 疲れやすい、集中できない、考えられない。
- Dその他 : 敵意、疎隔、離人。

### ✓ 精神病の分類

#### ➤ [ **クレペリン** ]による分類

- ①[ **器質性精神病** ]: 脳に形態学的変化が生じる精神病。梅毒スピロヘータによる[ **進行麻痺** ]など。
- ②[ **内因性精神病** ]: 形態学的異常のない[ **機能** ]上の[ **生物学的素因** ]( **内因** )を有する者が、環境的な[ **ストレス** ]に晒されることで発症する精神病。AとCの中間的存在。典型は、[ **鬱病** ]と[ **統合失調症** ]。
- ③[ **心因性精神病** ]: 器質的異常が全く無い精神病。BとCをまとめて[ **機能的な精神病** ]と呼ぶ。

## § 12 パーソナリティ障害

### ✓ パーソナリティ障害の類型

#### ➤ [ パーソナリティ障害 ]

- ・ ⇒ [ 精神病 ]で説明できない性格の[ 強い偏り ]のこと。[ 10 ]種類に分類される。
- ・ 著しく偏った考え方、ものの見方を持ち、感情を抑制できない。これらの特徴は、表面的には分からず、付き合ってみて初めて発覚する ( ミクロな狂い )。

#### ➤ A[ clusterA ]

- ・ ⇒ 風変わりな思考・言動を特徴とするパーソナリティ障害 (①～③)。
- ・ ① [ 妄想性パーソナリティ障害 ] : 疑り深さ、嫉妬深さを特徴とする。
- ・ ② [ 統合失調質パーソナリティ障害 ] : 感情表出が乏しく、[ 社会的ひきこもり ]を示す。
- ・ ③ [ 統合失調型パーソナリティ障害 ] : 統合失調症に類似する特徴を持つ。

#### ➤ B[ clusterB ]

- ・ ⇒ 情緒的に不安定で、気分や感情の激しい変化を特徴とするパーソナリティ障害 (④～⑦)。
- ・ ④ [ 反社会性パーソナリティ障害 ] : 共感力や良心を欠き、反社会的行動や犯罪行動を繰り返す。
- ・ ⑤ [ 境界性パーソナリティ障害 ] : 不安定で一方的な対人関係、衝動的な言動を特徴とする。
- ・ ⑥ [ 演技性パーソナリティ障害 ] : 常に芝居がかった態度で他人の注意を引き、満足を得る。

#### ➤ C[ clusterC ]

- ・ ⇒ 強い恐怖・不安を特徴とするパーソナリティ障害 (⑧～⑩)。
- ・ ⑧ [ 回避性パーソナリティ障害 ] : 自己評価が低く、批判や拒絶を恐れ極端に引っ込み思案。
- ・ ⑨ [ 依存性パーソナリティ障害 ] : 常に身近な他者の保護を求め、自尊心が弱い。
- ・ ⑩ [ 強迫性パーソナリティ障害 ] : 几帳面、完璧主義、融通の無さが特徴で、他者にも完璧を要求する。

### ✓ 自己愛型ストーカー【過】

#### ➤ ⑦[ 自己愛性パーソナリティ障害 ]

- ・ A[ 病的な自己愛 ] : 幼児期の幻想的な[ 自己万能感 ]が消失せず、[ 根拠 ]と[ 努力 ]に欠ける[ 自己愛傾向 ]が著しく強く、誇大な自己像を持つ (⇔[ 健全な自己愛 ])。この裏返しとして (現実的根拠に欠けるからこそ)、批判や拒絶に傷つきやすく、過剰に攻撃的な行動をとる。
- ・ B[ 賞賛への欲求 ] : 他者の注目を集める自己顕示的な行動をとり、他者の反応を賞賛や羨望と解釈し ( 自己誇大的バイアス )、自尊心の高揚・維持を図る ( 自尊心方略 )。賞賛してくれる人に過度に好意的な感情を抱く。
- ・ C[ 他者への嫉妬 ] : 他者が賞賛されると[ 自尊感情 ]が低下するように感じ、他者を貶すことでその回復を試みる。つまり、自尊感情を[ ゼロサム・ゲーム ]のように捉えている。

#### ➤ [ スワンの実験 ]

- ・ ⇒ 自分への好感度が低いとされた相手を、自己評価の高い人は褒め、自己評価の低い人は褒めなかった。
- ・ [ 自尊心方略 ]を示しており、自己評価と他者評価を一致させようとする[ 自己確証欲求 ]で説明される。

#### ➤ [ 自己愛型ストーカー ]

- ・ ⇒ 自己愛傾向の強い人が[ 挫折愛 ]を発端としてなる、攻撃的な[ ストーカー ]。cf[ イノセント・タイプ ]。
- ・ 当初は「病的な自己愛」故に、相手からの拒絶を受け入れられず、「本当の理由」を探るために相手への干渉を強めるが、さらなる拒絶を受けると、怒りや恨みの感情を抱き、激しい攻撃的行動に出る。最悪の場合は、障害・殺人事件に発展することもある。
- ・ [ ストーカー ] : 異性に一方的な恋愛感情や好意を抱き、両想いだと錯覚し、迷惑行為や攻撃行動をとる者。
- ・ [ リベンジ・ポルノ ] : 元配偶者や元恋人の裸の写真・動画をネット上に流出させる、嫌がらせ行為。

**コメントの追加 [k22]:** [23A-3、30S-5] いわゆる「挫折愛型」のストーカーの心理について次の () 内の語句をすべて用いて説明せよ。なお、() 内の語句を用いた箇所は、初出に限りアンダーラインを付して示すこと。(自己万能感、ゼロ・サムゲーム、自尊心方略、自己確証理論、健全な自己愛)。  
【25S-4】ストーカーの心理について、自己愛という観点から論述せよ。